

# 建設企業常任委員会次第

令和2年9月23日（水）10時  
於 大 会 議 室

## 1 開 会

## 2 議 事（都市局、水道局関係）

### (1) 付託された議案の審査

議案（1件）

議案第82号 市道路線認定のこと

..... 田仲 道路安全室長兼道路総務課長

### (2) 報告事項（5件）

ア （仮称）17号池公園の整備状況について

※ 資料参照 ..... 門田 緑化公園課長

イ 南畑踏切の安全対策について

※ 資料参照 ..... 嶽下 道路整備課長

ウ 玉津大久保線の早期整備に向けた神戸市への要望について

※ 資料参照 ..... 吉川 道路計画・保全担当課長

エ 山手環状線（大窪工区）の整備について

※ 資料参照 ..... 高田 山手環状線整備担当課長

オ 阪神水道企業団からの新規受水について

※ 資料参照 ..... 新田 水道局次長

### (3) その他

## 3 閉 会

以 上

（仮称）17号池公園の整備状況について

（仮称）17号池公園整備は、「みんなにやさしい」をコンセプトに社会資本整備交付金を活用し、平成31年から令和3年までの3ヵ年、総額9億円で整備する計画としておりますが、「SDGs未来都市」に選定されたことや、魚住地区のタウンミーティングや地元説明会の意見等を反映し、下記の新たな施設の整備を検討し、併せて工期と整備費用の見直しを計画しております。



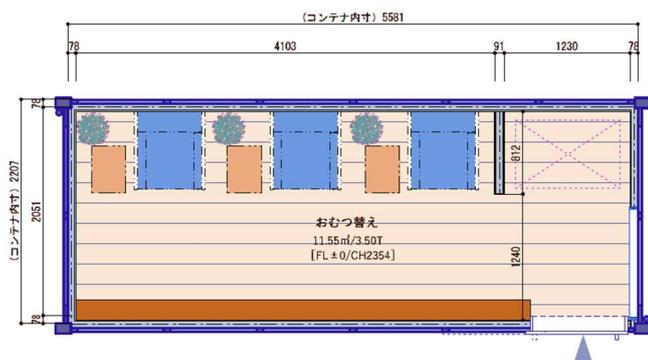
I 新たな施設

① インクルーシブ遊具

「SDGs未来安心都市・あかし〜いつまでもすべての人にやさしいまちをみんなで〜」の理念のもと、「みんな広場」は、障がいや年齢に関わらず、誰もが一緒に楽しめるよう車椅子でも利用できる勾配の緩やかな遊具や、視覚障がいがあっても音で一緒に楽しめるインクルーシブ遊具の設置を検討しています。（下図は参考図）



## ナーサリ-施設の例



## インクルーシブデザインの導入

公園整備など、まちづくりの分野では「ユニバーサルデザイン化」が進められていますが、今回はそこからさらに一歩進めて、計画段階から障がい者や高齢者といった多様な人たちとともに考える「インクルーシブデザイン」を導入し、誰もが「一緒に」「安心して安全に」「楽しめる」ことを目指します。

また、インクルーシブ遊具の設置はもとより、アクセスしやすい通路や誰もが使えるトイレ、休憩施設など(ナーサリ-施設)の整備もあわせて検討しています。

## ② 歩道橋

魚住地区のタウンミーティングや地元説明会でいただいた、「今まで通り堤体を降りることなく散歩したい」などの意見を反映し、国道2号と接する公園入口部分に歩道橋を架け、堤体を降りることなく、周遊路として周回できるようにします。(下図参照)

歩道橋のイメージ図



## 2 スケジュールと整備費用について

インクルーシブ遊具の設置は、まだ日本では事例が少ないため、SDGs 推進室とともに当事者団体と意見交換をしながら、より良いものになるよう検討し、整備内容を決定します。また、これらの検討期間と、新型コロナウイルスの影響による一部の資材調達の遅れにより、整備期間の延伸が必要となります。併せて、整備費用については、インクルーシブ遊具が約6千万円、歩道橋が約4千万円を見込んでおり、当初の総額9億円から、総額10億円の整備費となる予定です。なお、追加費用の1億円についても交付金を活用する予定です。(下記スケジュール表参照)

### 【スケジュール】

年度	概要	整備事業費 (整備予定事業費)
2019年(R元年)	造成・防球ネットほか	1億3,500万円
2020年(R2年)	地下埋設物布設・多目的グラウンド整備ほか	1億9,000万円
2021年(R3年)	緑のグラウンド・園路舗装ほか	(3億1,000万円)
2022年(R4年)	建築施設整備・インクルーシブ遊具整備ほか	(3億6,500万円)
	計	10億円

※国費の配分状況により事業期間は変動します。

## 南畑踏切の安全対策について

### 1 概要

JR西明石駅の西側に位置する南畑踏切は、幅員が狭小で踏切延長が長いことに加え、ピーク時には1時間当りの遮断時間が約40分のいわゆる「開かずの踏切」であり、踏切道改良促進法における「改良すべき踏切」として指定を受けています。

市およびJRは、南畑踏切の安全対策について地元住民との意見交換会などを経て、横断歩道橋を設置して踏切は閉鎖することとし、2017年度(平成29年度)から横断歩道橋(エレベータ含む)の整備に取り組んでいます。併設するエレベータは、踏切利用者の多いことや歩道橋の高さが地表から約11mに及ぶことを踏まえ、24人乗り(内空1.5m×2.3m)の大型サイズを設定しております。

踏切幅員：2.8m 長さ：35.5m

利用者(バイク, 自転車, 歩行者)数：約3,400人/日

### 2 これまでの経緯

2017年度(平成29年度)から概略検討に着手し、現在、用地測量・物件調査および詳細設計に取り組んでいます。(横断歩道橋の配置計画は別紙のとおり)

平成29年度 概略設計

平成30年度～令和2年度 詳細設計(JR協定)

令和元年度～令和2年度 測量委託、物件調査

### 3 今後のスケジュール

詳細設計が、概ねまとまってきたことから、本年中に地元役員を対象とした説明会を開く予定です(10月予定)。また、今年度中に工事着手する予定で、2023年度(令和5年度)末の完成を目指して取り組んでまいります。

	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)
工事協定(JR)	■■■■■				
準備工	■■■■■				
基礎工		■■■■■			
橋梁製作		■■■■■	■■■■■		
橋梁架設			■■■■■	■■■■■	
附属物工			■■■■■	■■■■■	▽供用開始
踏切廃止工					▽閉鎖 ▽撤去

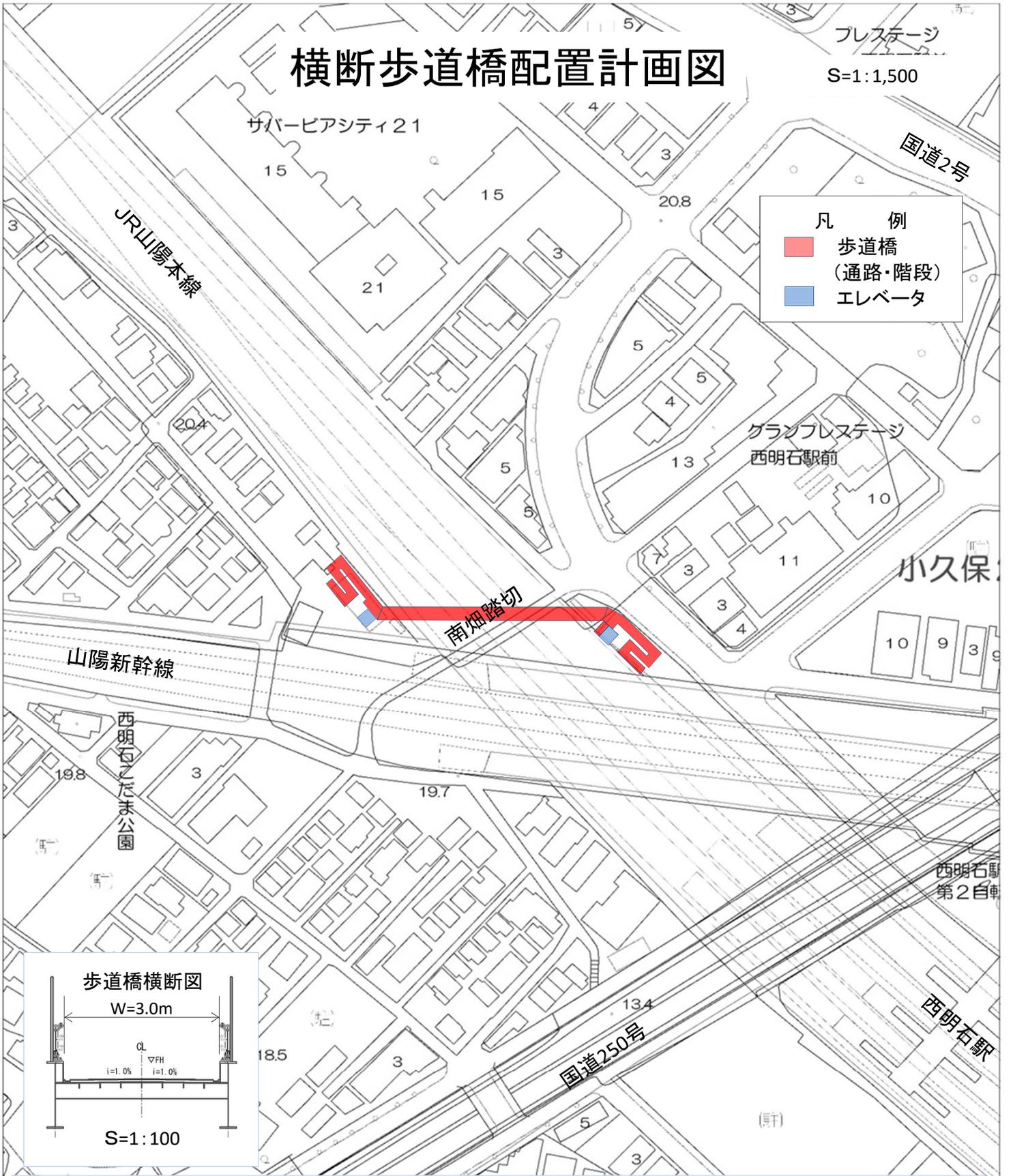
### 4 事業費

総事業費 約16億円

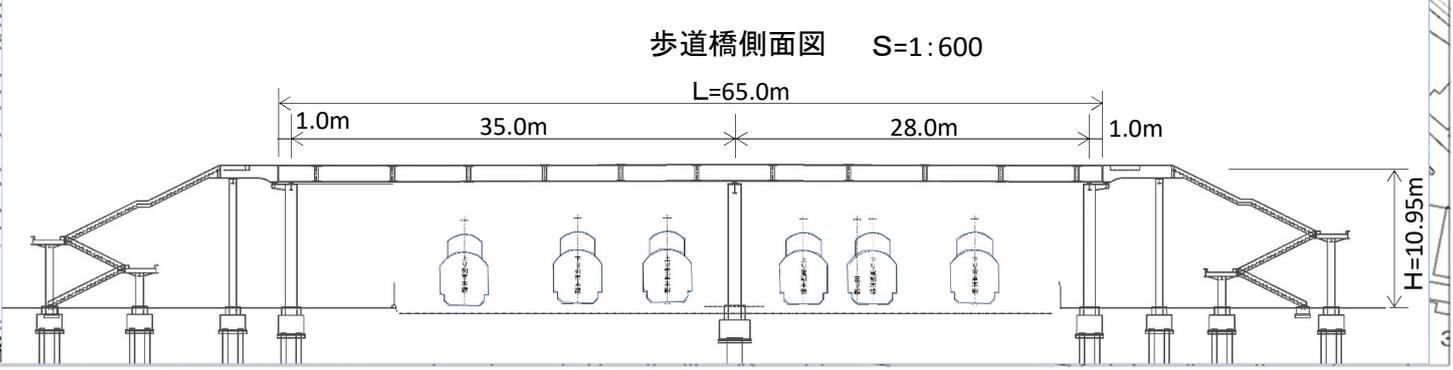
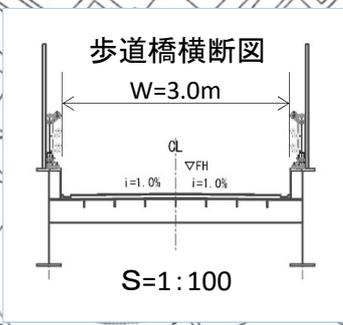
うち、市負担分 約2億円(起債対象)

# 横断歩道橋配置計画図

プレステージ  
S=1:1,500



- 凡 例
- 歩道橋  
(通路・階段)
  - エレベータ



## 玉津大久保線の早期整備に向けた神戸市への要望について

### 1 背景

本市の江井ヶ島松陰新田線につきましては、明石市大久保町と神戸市玉津町の地域間における国道2号や県道神戸明石線等の慢性的な渋滞の解消や地域間の活発な交流、災害時における避難・救援経路の確保といった課題解決を図るため、令和5年度の完成を目指し、重点的に取り組みを進めています。

当該道路は、神戸市の玉津大久保線と連続した幹線道路であり、ともに完成し、国道175号に接続することで一つの幹線道路ネットワークとして、事業効果を発現するものです。



### 2 要望概要

事業未着手となっている玉津大久保線との一体的な整備が不可欠であることから、これまで神戸市とは、実務者による協議を重ねてきたところ、2020年9月3日（木）に神戸市役所において、泉市長から神戸市油井副市長に玉津大久保線の早期整備について要望書を手交しました。（別添参照）

神戸市長 久元喜造様

## 要 望 書

平素より貴市におかれましては、本市市政運営の各般に対してご支援ご協力をいただいておりますことにお礼申し上げます。

さて、本市では、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の理念に基づく「持続可能な共生社会」の実現を目指して、こどもから高齢者まで、障害のある人もない人も、誰にとっても暮らしやすい「すべての人にやさしいまちづくり」にソフト・ハードの両面から取り組んでいます。このうちハード面においては、自然災害に対する安全・安心の確保や老朽化が進む都市インフラの機能維持、地域の利便性向上によるまちの活性化を図るための社会基盤整備を推進しており、とりわけ都市計画道路江井ヶ島松陰新田線を重要事業として位置づけています。

明石市大久保町と神戸市玉津町の地域間においては、国道2号や県道神戸明石線等の慢性的な渋滞により、生活道路へ通り抜け車両が日常的に流入し、歩行者をはじめ交通の安全性が低下しています。また、市境を跨ぎ東西に移動する道路が少ないため、地域間の活発な交流や災害時における避難・救援経路の確保が課題となっています。

このため、本市においては、平成28年度から都市計画道路江井ヶ島松陰新田線の整備に着手し、現在、用地取得や先行取得地等の道路工事を進め、早期完成を目指して取り組んでいるところです。

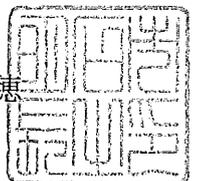
他方、貴市におかれましては、上記都市計画道路と一つの連続した幹線道路である都市計画道路玉津大久保線について、事業化に向けて様々に検討いただいていると承知していますが、当該道路予定地には埋蔵文化財が存在し、その調査に多額の費用と期間を要するなどの課題についてもお聞きいたしております。

しかしながら、広域的に地域間を結ぶ幹線道路は、市域を超え、ネットワークでつながってこそ、その効果を最大限に発揮できるものであり、市民の安全安心とまちの活性化にも資する未来への投資として、両市がともに協力し、スピード感を持って事業を推進していくことが必要であると強く認識いたしております。

つきましては、玉津大久保線の早期整備について、格別のご配慮賜りますようお願い申し上げます。

令和2年9月3日

明石市長 泉 房 穂

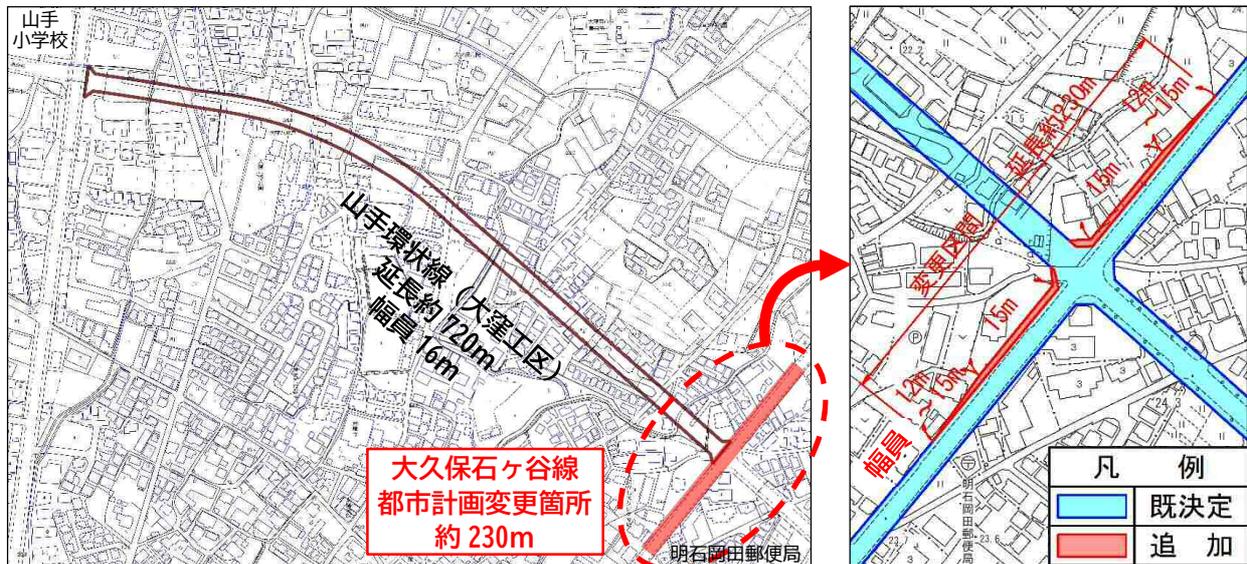


## 山手環状線（大窪工区）の整備について

都市計画道路山手環状線（大窪工区）の整備について、2026年度（令和8年度）の完成を目指して取り組みを進めており、現在までの取り組み状況と今後のスケジュールを報告します。

### 1 現在までの取り組み状況

県の事業認可を取得するためには、道路構造令に基づき、接続する大久保石ヶ谷線の交差点改良（右折車線の設置）が必要となるため、それにかかる都市計画変更の手続きを行いました。



令和2年2～3月：関係権利者へ事業概要説明

〃 5月：都市計画変更素案の意見募集【5/11～6/1】  
→意見書2件あり（賛成1件、その他1件）

〃 7月：都市計画案の法定縦覧【7/15～7/29】  
→意見書の提出なし（縦覧者1名）

〃 8月：都市計画審議会【8/27】  
都市計画変更告示【8/31】

### 2 今後のスケジュール

現在、兵庫県に事業認可申請を行っており、10月中に事業認可を取得する予定です。事業認可後は、速やかに国の交付金申請の手続きを行い、権利者説明会を経て、用地測量や詳細設計等の事業に着手します。



## 阪神水道企業団からの新規受水について

### 1 新規水源の必要性

明石川河川水は以前より水質悪化が危惧されており、現に有機フッ素化合物（PFOS・PFOA）の問題が顕在化しています。また、水量が不安定という問題もあります。

市内の各浄水場においては老朽化の問題があります。施設更新には多大な費用を要するため、すべての浄水場を維持することは経営上困難です。

そこで、平成29年3月に策定した明石市水道事業経営戦略においては、明石川河川水の代替水源となる新規水源を確保して必要水量を確保するとともに、明石川からの取水を廃止することを前提に明石川浄水場および鳥羽浄水場を段階的に廃止する計画を定めています。

### 2 阪神水道企業団からの新規受水について

明石市水道事業経営戦略では、受水先として阪神水道企業団または兵庫県営水道を想定しています。

このたび、阪神水道企業団からの新規受水に向けて阪神水道企業団、神戸市水道局および明石市水道局の3者による協議の場を設けることとなり、8月7日に第1回の協議を行いました。明石市としては、令和7年度からの新規受水に向けた検討をお願いしているところです。

阪神水道企業団からの新規受水に当たっては、他に厚生労働省への認可変更手続等も必要であり、上記3者協議と並行して厚生労働省との協議等も進めていきます。

阪神水道企業団への加入に当たっては、構成団体間の調整等も必要であり、時間を要することも想定されますが、令和7年度からの新規受水に向けて鋭意努めてまいります。

### 3 今後に向けて

阪神水道企業団からの新規受水については、現在のところ水量1万トン/日の受水が予定されています。

明石川浄水場の廃止のためには2万トン/日の受水が必要であるため、残り1万トン/日の受水の実現のための条件について、上記3者協議の場で検討を続けていきます。